

## 状況把握：それが失敗を避ける鍵

2021年12月

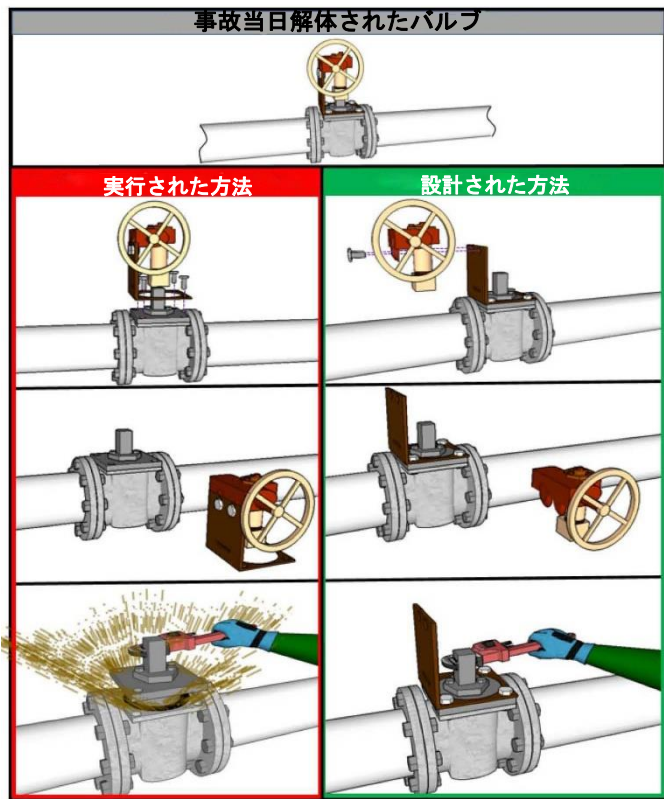


図1. 図は事故報告書で述べられているバルブハンドルの取り外しで、正しい方法と誤った方法を示している。(参照: Figure 3 CSB report 2016-02-1-LA)

バルブの開閉位置を変えてポンプを稼働させるため二人の運転員が現場に向かった。バルブが開かなかったので、運転員たちはギアボックスを外して、バルブの軸を直接レンチで廻して開くことにした。この操作は、この型式のほとんどのバルブではバルブの上蓋とは関係なく行うことができていた。しかし、このバルブは違うモデルであった。運転員がこのバルブからギアボックスを取り外すとき、バルブの上蓋を固定している取り付けボルトごと外してしまった。(図1. 参照)

バルブを手で開いたとき、大量の蒸気漏れが発生して着火し、深刻な被害を引き起こした。

### 知っていますか

- 状況把握とは、今どのような状況にあるか、そして作業を安全に成し遂げるには何が必要かを把握することである。
- 状況を正しく把握しないことは、ヒューマンエラーによる事故の主な要因のひとつである。
- 一つのエリアやユニットの中に、いくつもの異なったモデルの機器があることは、混乱を招き、失敗の罠となり、ミスを起こし易くする。
- 操作を見守る二人目の人を置くことは、しばしば“二人作業の原則”と言われている。しかし、監視者がその作業方法を知っているだけでなく、間違いが起こりそうになったり、不安全な状態になりそうになったら、積極的に阻止して初めて安全性向上に資することが出来る。
- 現場に出る前に、手順書を読んで作業の準備をすること。

### あなたにできること

- 作業にかかる前に二分ほどの間を取り、“何か間違いが起こらないか”を自問し、安全に作業を行うための必要な手順書、個人用保護具(PPE)、器具を再確認すること。
- 失敗の罠を見つけたら、監督者に知らせ、安全報告書に書き留めること。
- 失敗の罠をすぐに是正出来ない場合は、他の人に警告するため、それにタグを付けること。
- 間違いを減らすために、全てのバルブ開閉位置、機器の状態、及び所定のプロセス状態が手順書と合っているかを確認すること。
- 暫く行っていない作業を依頼されたら、手順書を読み直し、何か変更されたことがないかを同僚に尋ねること。

**状況把握：行動する前に確認すること**